

# ニコリティ Vol.43

にっこり(笑顔)+コミュニティ(地域)+クオリティ(生きいき)

いつも大変お世話になっております。

多職種連携の重要性がうたわれていますが、他職種がどのような業務を行っているかを知ることは「連携」の前提となるため、例年通り、当センターの実績を報告いたします。

## 平成30年度 北西部包括 実績報告

### 総合相談支援業務

- ・新規相談の実数は、358ケースで↓（前年度：407ケース） 内訳は、「介護相談」=85%、「在宅医療介護連携」=6%、「生活・住居・家族問題」=5%、「認知症の相談」=1% など
- ・総合相談にかかわる自宅訪問件数（延べ）は、867件で↓（前年度1028件）
- ・相談業務にかかわる電話件数（実数）は、8977件で↑（前年度8500件）

### 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ・「地域連携・会議等への参加」は、185回で↓（前年度194回）、「広報活動」は、11回で↓（前年度12回）、困難事例等の「地域ケア会議」は、7回で↑（前年度4回）
- ・主任介護支援専門員向けの小樽市地域包括支援センター事例検討会を開催しています。

### 権利擁護業務

- ・権利擁護ケースの月毎の延べ対応件数は、35回で↓（前年度86回）、新規対応は、5ケースで↓（前年度31ケース） 内訳は、虐待事例2ケース【心理的、身体的】（前年度13ケース）、支援困難3ケース（前年度18ケース）。 継続対応ケースは、H25年～1ケース、H29年～6ケース
- ・多重課題を抱えた複雑なケース（特に家族への支援が必要なケース）が増加しています。

### 介護予防ケアマネジメント業務

- ・平成30年3月の給付管理数は、309件で↑（前年同月299件）、予防給付（予防ケアマネジメント含む）にかかわる訪問（定期訪問）件数は、3550回※で↑（昨年3451回）

※利用者1人あたり、一年に約11回訪問している計算となります。

- ・認定調査（介護支援専門員資格のある7名で担当）は、152件↑（前年度119件）
- ・介護予防事業は、「シニア元気教室（介護予防教室）『わいわい』」特別養護老人ホームやすらぎ荘：第1・2・3水曜日（委託事業）を実施。 介護予防サポーターと地域包括支援センターによる運営で、全33回の開催、延べ参加者は692名

○シニア元気教室「笑顔」長栄会館（長橋）：毎週金曜日（自主運営）※年3回の出前講座

○シニア元気教室「いきいき」赤岩会館：第2・4金曜日（自主運営）※年3回の出前講座

○シニア元気教室「しおかぜ」塩谷サービスセンター：毎週火曜日（自主運営）※年3回の出前講座

○シニア元気教室「なえぼ」長和会館（長橋）：毎週火曜日（自主運営）※年3回の出前講座

○シニア元気教室「はぴねす」幸会館：第2・4月曜日（自主運営）※年3回の出前講座

○シニア元気教室「ひまわり」丸山下会館：第1・3木曜日（自主運営）※年3回の出前講座

シニア元気教室は、65歳以上であれば、住んでいる圏域や介護認定の有無に関係なく参加できます。  
現在、北西部圏域では、57名のボランティアの介護予防サポーターが活動し、約270名の高齢者が参加しています。

※北西部では、介護予防事業担当と生活支援コーディネーターが連携して取り組みを行なっています。

## 認知症初期集中支援チーム・認知症地域支援推進員

・認知初期集中支援チームとしての新規対応は、1ケース（訪問数は延べ3回、会議2回）で↓（前年度4ケース）、総合相談支援として継続対応しているのは1ケースとなっています※

※チームの支援対象者は、原則として40歳以上で在宅生活しており、かつ認知症が疑われる方で、認知症の臨床診断を受けていない、継続的な医療・介護サービスを受けていない方、または中断している方で、支援期間は、医療や介護サービスによる支援に移行するまでの間とし、概ね最長で6か月。

・認知症地域支援推進員として、小樽市認知症カフェ（小樽オレンジかふえ わいわい店）全11回を開催（毎月第2水曜日）。一般参加者は延べ217名（前年度92名）となっており、今年度も4月10日（水）より、毎月第2水曜日10:30～13:00に開催します。

## 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）

・第2層（各地域包括支援センターの圏域を対象とした活動）生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）として、介護予防事業担当と連携してのシニア元気教室での出前講座の実施や、地域版の広報紙「にこりてい」（年3回）発行などに取り組んでいます。

・総連合町会と介護保険課が共催した『地域支え合い会』へ参加。今年度も引き続き参加する予定です。

・第1層（市内全域を対象とした活動）生活支援コーディネーター（小樽市社会福祉協議会）が主催した「おたる地域づくりワークショップ」へ参加。また、共同して社会資源の把握に取り組み、市内の社会資源の一覧表（「みんなで作る地域のお役立ち手帳」）を改訂しています。

## 在宅医療・介護連携

・平成30年4月より各地域包括支援センターに「小樽市在宅医療・介護連携相談センター」が開設されました。

・在宅医療・介護連携推進事業として、医療・介護に携わる方々の連携やサポートを行えるよう、居宅介護支援事業所や医療機関を対象としたアンケートなどを実施し、多職種連携のための『おたる～る』を発行・配布する予定です。

☆ 2019年4月1日現在 北西部地域包括支援センター職員（主任介護支援専門員3名、保健師・看護師3名、社会福祉士1名、介護支援専門員1名）計8名

・介護予防事業担当3名（兼務）、認知症初期集中支援チーム員7名（兼務）、認知症地域支援推進員7名（兼務）、生活支援コーディネーター2名（兼務）、在宅医療・介護連携担当2名（兼務）

広報紙を通して、事業所のみなさまとの双方向のコミュニケーションができるようになればと思います。  
ご意見・ご感想・ご質問などを、お寄せ下さい。

笑顔のまちづくりに取り組みます。今後も北西部地域包括支援センターをよろしくお願い致します。

### 小樽市北西部地域包括支援センター

〒048-2671 小樽市オタモイ1丁目20-18 TEL 0134-28-2522 FAX 0134-28-2523

mail:hokatsu@otaru-ikuseiin.or.jp

